



## WEB ARCH LABO

WEBシステム開発のノウハウを蓄積・共有するエンジニア向けサイト

- [Ruby](#)
- [PHP](#)
- [Java](#)
- [Apache httpd](#)
- [MySQL](#)
- [Vagrant](#)
- [Python](#)
- [その他](#)
  
- [トップページ](#)
- [› Let's Encrypt](#)



# Let's Encrypt の証明書の更新を自動化する手順 (cron)

投稿者 : OSCA

1

Tweet

シェア 0

12

[関東地方の美しい夜景を観にいこう。夜景サイト「夜景散歩」で夜景スポットを検索](#)

無料で SSL/TLS 証明書を発行できる Let's Encrypt の証明書有効期限は3ヶ月間です。有効期限が近づくと Let's Encrypt からその旨をお知らせするメールが届くわけですが、毎回手作業で `certbot renew` コマンドを実行するのは面倒です。ここでは、Let's Encrypt の証明書の更新を `cron` で自動化する手順について解説します。

## 手順の概要

どんな Linux ディストリビューションでも、指定したコマンドを定期的に自動で実行してくれる **cron** がインストールされています。この `cron` を利用して、Let's Encrypt の証明書を更新してくれる `certbot renew` コマンドを定期的に実行するようにしてあげれば良いでしょう。

## cron を設定する前に

ここから具体的に `cron` に設定するコマンドを解説していきますが、その前に知っておくと便利なコマンドがあります。`certbot renew` コマンドには、シミュレーション実行する `-dry-run` オプションがあります。このオプションをつけておくと、実際には証明書の更新を行いません、シミュレーションをするだけになります。ですので、`cron` に設定するコマンドが定まるまでは、この `-dry-run` オプションをつけながら検証することをおすすめします。

```
certbot renew --dry-run
```

## cron のコマンドを構築する

さて、それでは `cron` に証明書の更新コマンドを設定していきましょう。なお、ここでは少しずつ機能を追加していきますので、一度この記事を一通り目を通してご自身に必要なコマンドを利用させていただくか、`-dry-run` オプションをつけながらコマンドを実行してください。

また、証明書の更新には `root` 権限が必要ですので、`root` ユーザーの `cron` に設定するようにしてください。

```
$ crontab -u root -e
```

## 最小限のコマンド

まずは最小限のコマンドを考えてみましょう。`cron` に次のように設定すると、定期的に自動で証明書を更新してくれます。ここでは例として、毎月1日の深夜4:00に証明書を更新するようにします。

```
00 04 01 * * certbot renew
```

## WEBサーバーも再起動させる

Let's Encrypt で発行したSSL/TLS証明書を Apache httpd や Nginx などのWEBサーバーに設定している場合が多いでしょう。その場合、SSL/TLS証明書を更新したあとにWEBサーバーを再

起動する必要があります。 この場合は、次のようにコマンドを設定するのが良いでしょう。

```
# Apache httpd を利用している場合の例 (CentOS 6 の場合)
```

```
00 04 01 * * certbot renew && service httpd restart
```

```
# Apache httpd を利用している場合の例 (CentOS 7 の場合)
```

```
00 04 01 * * certbot renew && systemctl restart httpd
```

```
# Nginx を利用している場合の例 (CentOS 7 の場合)
```

```
00 04 01 * * certbot renew && systemctl restart nginx
```

## 証明書の更新結果をメールで受け取る

さて、ここまでのコマンドで証明書の更新は実現できますが、証明書の更新結果をメールで受け取れると便利でしょう。 次のように mail コマンドに結果を食わせることで、結果をメールで受け取ることができます。 ここでは例として、タイトル「Let's Encrypt update information」というメールを「myname@mydomain.com」に送ります。

```
00 04 01 * * certbot renew --dry-run 2>&1 | mail -s "Let's Encrypt update information"
myname@mydomain.com && systemctl restart httpd
```

これで証明書の更新し忘れなどを防げる自動化の仕組みが完成です。 ぜひご利用のサーバーに設定してみてください。

## おわりに

本稿では Let's Encrypt の証明書を自動的に更新する cron 設定について解説しました。 皆様のお仕事のお役にたてれば幸いです。

### グローバルメーカー特集

ご自身の市場価値を高めるために、刺激にあふれた環境で成を目指しませんか。



## 著者：OSCA



Java, PHP 系のWEBエンジニア。WEBエンジニア向けコミュニティ「[WEBエンジニア勉強会](#)」を主催。

個人として何か一つでも世の中の多くの人に使ってもらえるものを作ろうと日々奮闘中。

[@engineer\\_osca](#)



### [広告掲載について](#)

**WEB ARCH LABO**  
58 「いいね！」の数

このページに「いいね！」

シェア

「いいね！」した友達はまだいません

# WEBエンジニア勉強会 最新情報

- > [WEBエンジニア勉強会 #13 を開催しました](#)
- > [WEBエンジニア勉強会 #13, 05月24日開催！](#)
- > [WEBエンジニア勉強会 #12 を開催しました](#)
- > [WEBエンジニア勉強会 #12, 03月29日開催！](#)
- > [WEBエンジニア勉強会 #11 を開催しました](#)
- > [WEBエンジニア勉強会 #11, 02月01日開催！](#)







## 海外出張のある求人も多

経験を生かした次のキャリア  
を探すならビズリーチ

## [広告掲載について](#)



-  [Ruby](#)
-  [PHP](#)
-  [Python](#)
-  [Java](#)
-  [Swift](#)
-  [Apache Maven](#)
-  [Apache Tomcat](#)
-  [Vagrant](#)
-  [Subversion](#)
-  [Apache httpd](#)

-  [MySQL](#)
-  [Redis](#)
-  [ownCloud](#)
-  [OpenSSL](#)
-  [OpenSSH](#)
-  [CentOS 6](#)

## About Us

- [WEB ARCH LABO について](#)
- [広告掲載のご案内](#)

© WEB ARCH LABO